

## 鈴木満先生 長い間ご苦勞さまでした



鈴木 満 (すずき みつる)

### 【略歴】

昭和 16 年 11 月 5 日  
東京都文京区に生まれる

昭和 44 年 3 月  
東京医科大学卒業

昭和 48 年 3 月  
東京医科大学大学院修了

昭和 48 年 4 月  
東京クリニック開設 院長就任

昭和 54 年 11 月  
医療法人財団松圓会理事長

平成 14 年 4 月  
同法人名誉理事長

昭和 57 年 4 月～昭和 63 年 3 月

平成 6 年 4 月～平成 18 年 3 月  
松戸市医師会理事

平成 4 年 6 月～平成 12 年 3 月  
日本アフレシス学会理事

平成 6 年 6 月  
第 14 回日本アフレシス学会大会長

平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月  
千葉県医師会理事

平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月  
日本医師会常任理事

昭和 62 年 7 月～平成 5 年 4 月  
日本透析医会理事

平成 5 年 5 月～平成 14 年 4 月  
日本透析医会専務理事

平成 15 年 5 月～平成 18 年 4 月  
日本透析医会監事

平成 19 年 5 月～  
日本透析医会顧問

平成 16 年 2 月  
千葉県国民健康保険団体連合会  
理事長顕彰

平成 17 年 11 月  
日本医師会優功賞受賞

平成 19 年 4 月  
藍綬褒章受章

平成 22 年 12 月 23 日  
逝去 (享年 69 歳)

どうしてそんなに急いで、人生を駆け抜けてしまわれたのでしょうか。

振り返ってみますと先生は、早くに大学を去り、東京クリニックを立ち上げられました。その後も東葛クリニック病院から始まって、次々とサテライト施設を展開され、独自の透析医療提供システムを確立されました。最終的には自施設を、急性期医療を担う地域中核病院として、その存在を明確にされました。しかし、どれほどの期間、確立されたシステムの院長や理事長にとどまっておられたのでしょうか。躊躇することも、惜しむこともなく、いつの間にかそのすべてを後輩に譲り渡してしまわれました。そのことは、先生が小石川生まれで、神田明神に初詣するチャキチャキの江戸っ子だから、宵越しの金を持つのを恥とする心意気に通じるものだったのでしょうか。いずれにしても、それらを受け継いだ後輩やスタッフの方々が、先生の意志をついで生き生きと仕事をするさまを見せていただきますと、最初の計画通りだったと快哉を叫んでいることでしょうか。

また先生は、松戸市医師会、千葉県医師会の理事を経由し、2006 年からは日本医師会常任理事を勤められました。自ら保険担当を希望され、中医協委員として 2008 年の診療報酬改定にあたられました。しかし医療に対して厳しい逆風が吹いた改定で、3.16% という史上最大の医療費下げ幅となり、甘んじてその責を一身に受けられました。一方、透析に関しては、医師会や厚生労働省への了解を取り付けたうえで、2002 年の診療報酬改定で廃止された時間区分を復活させました。医療の質を向上させることとはいえ、一旦廃止された保険点数を復活させることは、至難のわざと言われています。時間区分の復活は、わが国透析医療の成績が劣化するのを間違いなく引き戻したことになる、その功績は特筆され、将来に語り継がれるべきものです。

こうした一連の活動から、先生は、何よりもわが国透析医療の健全な発展に力を注がれてきたと思われます。特に、日本透析医会の設立とその後の運営につきましては、先生抜きには考えられないことでした。1981 年に透析医療費が大幅に削減され、これに危機感を抱いた志を一にする同志が集まり、都道府県透析医会連合会が結成され、それが法人化するまでは、先生と、すでに故人となられました平澤由平連合会長・太田裕祥副会長の業績です。本来なら、当然、日本透析医会会長となるべきでしたが、固辞され専務理事のままでおられたのは、自施設の立ち上げと禅譲に見るように、出来上がった組織の表面からは去るという美学の表れでしょうか。

奥様とともに窯場をめぐってぐい飲みやお茶碗を集めたり、江戸情緒を愛され、藍綬褒章受賞のお祝いでは、木遣りが先導したり、お祝いの獅子舞は浅草の幫間が演じたりと、まさに通人でした。考えてみれば日本透析医会の事務所が神田にあるのも、先生と太田裕祥先生の江戸生まれに関係したためでしょう。日本透析医会の会議が終わって、藪そばで、手前味噌とアナゴの白焼き、浅草のりで飲み、せいろの 2～3 枚を手繰る様は、私にとって、まるで時代小説を読むような楽しいひと時でした。

いま、発展し続けてきた透析医療も、間もなく患者数の増加が止まり、システム全体として縮小するべき時期が迫っていると言われていています。こうした時期にこそ、先生のような変革をやすやすと乗り切ることができる創造的で活動的なリーダーが必要とされたはずですが、今はそれもかかないません。残されたものとして、少しでも先生の意志に沿うような、わが国透析医療のための活動を続けてゆく所存です。どうかお見守りください。本当に長い間ご苦勞さまでした。有難うございました。

(日本透析医会会長 山崎親雄)